小林徳三郎《金魚を見る子供》1928年　東京国立近代美術館所蔵

小林徳三郎

詩のような日常宇宙。

Kobayashi Tokusaburo: A Retrospective

2025 II／22（土）→ 2026 I／18（日）

休館日＝月曜日（ただし11／24、1／12は開館）、11／25［火］、年末年始（12／29～1／2）

開館時間＝10時～18時（金曜日は20時まで）

＊入館は閉館30分前まで

主催＝東京ステーションギャラリー［公益財団法人東日本鉄道文化財団］、東京新聞

特別協力＝広島県立美術館　協賛＝T&D保険グループ

［会場］東京ステーションギャラリー

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

東京 TOKYO STATION CITY

JR東日本

異色の洋画家・小林徳三郎の全貌にせまる

Kobayashi Tokusaburo: A Retrospective

繰り返し描き、深めた情景。

小林徳三郎(1884–1949)は、1909年に東京美術学校を卒業後、若者による先駆的な絵画表現で注目を浴びたフュウザン会で活躍、1923年からは春陽展を中心に発表を続け、鰯や鯵といった魚を主題とした作品を数多く描き、周囲に強い印象を与えました。

40代半ば頃より、自分の子供たちをモデルに何げない日常を表現した作品が増え、時にはマティスを連想させる明るい色や筆遣いの静物や風景を描いていくようになります。晩年は、江の浦(沼津市)をはじめとする自然風景に興味をもち、入り江や渓流など同じ主題にくり返し取り組み、死の直前まで精力的に筆を握りました。

本展では、約300点の作品と資料により、その画業の展開を追います。写真家、洋画家、文学者、演劇関係者、美術評論家ら大勢から愛された画家による、どこか心惹かれる日常的な光景をお楽しみください。

1 | 2
3 | 4
5 | 6

1.《自画像》1909年 東京藝術大学所蔵　2.《鰯》1925年頃 碧南市藤井達吉現代美術館所蔵
3.《西瓜》1932年 広島県立美術館所蔵　4.《二階の縁》1940年頃 個人蔵
5.《花と少年》1931年 ふくやま美術館所蔵　6.《渓流》1945–48年頃 個人蔵

待たれた再検証。初めての大回顧展、日本4会場を巡回!!

〈劇団「芸術座」の舞台装飾／出版の仕事〉

《『海の夫人』と思われる舞台装置図》1914年頃 個人蔵

◉劇団「芸術座」の看板俳優・松井須磨子が公演『復活』で披露した劇中歌「カチューシャの唄」が大ヒットした時期に、小林徳三郎は同劇団の舞台装置の仕事をしていました。本展の調査で発見された膨大な資料のなかから、舞台関連の図案類とともに戯曲や小説など出版物のために手がけた下絵や原画を展示。当時の仕事ぶりを掘り起こします。

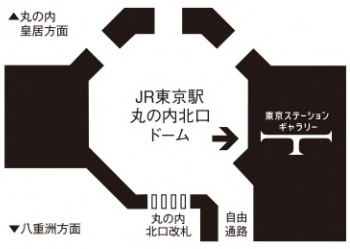
「舞台装置のための切抜き模型」1914年頃 個人蔵

入館料＝一般 1,300(1,100)円、高校・大学生 1,100(900)円、中学生以下無料

＊(　)内は前売料金[10/1 ～ 11/21オンラインチケットで販売]　＊障がい者手帳等持参の方は200円引き(介添者1名は無料)
＊前売券・当日券はオンラインチケット【www.e-tix.jp/ejrcf_gallery/】で販売　＊当日券は当館1階でも販売　オンラインチケット☞

◉会期中、一部展示替えがあります　◉都合により開催内容が変更になる場合があります　◉最新情報や関連イベントは当館ウェブサイトで随時ご案内します

【次回展】大西茂　写真と墨象(仮称)　2026年1月31日(土)～3月29日(日)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel. 03-3212-2485　[ウェブサイト] www.ejrcf.or.jp/gallery/
[交通] JR東京駅 丸の内北口 改札前